

高齢期部会 開催日：H31.5.17（金）

令和元年度 第1回 香南市人生支援計画 高齢期 部会報告書
 （H30年度の取組に対する評価について）

◇ 部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	小松 健一	香南市社会福祉協議会 会長	出
2	○	福井 清仁	民生児童委員会 代表	出
3	◇	島崎 義幸	高齢者クラブ 代表	出
4	◇	大谷 修二	第1号被保険者代表	出
5	◇	矢野 由美子	第2号被保険者代表	出
6	◇	岡本 八重子	サービス利用者家族代表	出
7	◇	福永 康夫	夜須町民生児童委員協議会	欠
8	◇	安岡 喜久一	香我美町まちづくり評議会会長	欠
9	◇	近森 孝章	シルバー人材センター	出
10	◇	濱崎 勲	香美人権擁護委員協議会	欠

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	宮崎 結城	高齢者介護課	出
2	○	西内 淳	福祉事務所	出
3	◇	中城 由美	高齢者介護課	出
4	◇	坂本 充子	福祉事務所	欠
5	◇	寺内 潤	環境対策課	出
6	◇	山崎 正博	生涯学習課	出
7	◇	岩佐 和子	健康対策課	出
8	◇	田中 彰裕	人権課	出
9	◇	宮崎 遼	地域支援課	出
10	総括	岡本 修	//	出
11	//	久武 正和	//	出

☆ 高齢期部会の開催内容

- ◎ 開会
- ◎ 自己紹介
- ◎ 議事内容
 1. 平成30年度 第2回人生支援計画策定委員会の報告について
 2. 平成30年度の取組について
 - ◇ 『目標数値』に対する精査について 【PDCA】
 - ◇ 各事業の取組の精査
 3. 令和元年度の部会のテーマについて
- ◎ その他（年間スケジュールなど説明）
- ◎ 閉会

1. 平成30年度第2回人生支援計画策定委員会の報告について

- 平成31年1月29日開催の策定委員会に出席した部会長から報告。(内容省略)

2. 平成30年度の取組について

以下に掲載する個別事業名は、各施策を実施するための課題等について、特に成果があったものや改善することが必要とされ、より深く議論されたものである。

◇ 『目標数値』に対する精査について 【PDCA】

① No.62 パークゴルフ・ペタンク参加者数

【P】(目標値)

- ◇ H30年度目標：『参加者数 160人/年』
- ◇ 実績値：『参加者数 155人/年』
- ◇ 評価：『B』

【D】(実行内容)

○ 激しい運動ができない世代に健康増進や交流を目的にペタンク、パークゴルフ、ゲートボール等の軽スポーツを推進する。

【C】(チェック/確認)

- 経年の実績が出ているが、「事業を実施したことで健康推進になった」などの評価があったらよいと思う。
- 高齢者のスポーツには、様々なものがあり、高齢者の生きがいや健康を目的として推進することでスポーツに関わる人が増えるなど、全体のスポーツ振興と健康をつなげた方がよいのではないか。
- 計画の評価は、量で図るしかないが、何等かの形でヒアリングするなど、フォローすると良い。
- 計画の中では大会への参加人数とするしかないが、運動(軽スポーツ)をしている人の人数は何らかの形で把握していく必要はあると思う。

【A】(アクション/改善)

○ 愛好者への呼びかけを積極的に行い、競技人口の維持拡大を図る。

② No.64 健康チャレンジポイント チャレンジ者数

【P】(目標値)

- ◇ H30 年度目標：『65 歳以上チャレンジ者数 110 人/年』
- ◇ 実績値 : 『65 歳以上チャレンジ者数 151 人/年』
- ◇ 評価 : 『A』

【D】(実行内容)

- いきいきチャレンジ：血圧・運動・朝食の項目で 1 ヶ月間専用の用紙に記録してもらい、5 ポイント付与。
- いきいきビッグチャレンジ：体重・禁煙・飲酒・間食の項目で各自目標を作成し、3 ヶ月間の取り組みを記録してもらい、3 ヶ月後に目標が達成していれば 10 ポイント付与、未達成でも記録用紙提出で 5 ポイント付与。
- 健康パスポートへ 10 ポイントを貯めると、香南ギフトカタログで利用できる 500 円分のクーポン券を配布（年度内 1 人 2000 円上限）

【C】(チェック/確認)

- 健康に向けての長期継続が主旨だと思うので、チャレンジ者数ではなく、昨年チャレンジした人がどのくらい継続しているのかを目標設定にした方がよいのではないかと。

【A】(アクション/改善)

- 健康パスポートの PR とあわせて健診会場や各種事業で PR し、参加を呼びかける。

③ No.72 定年後の再就職支援 シルバー人材センター登録者数

【P】(目標値)

- ◇ H30 年度目標：『シルバー人材センター登録者数 264 人/年』
- ◇ 実績値 : 『シルバー人材センター登録者数 193 人/年』
- ◇ 評価 : 『B』

【D】(実行内容)

- 高齢者が経験を活かせる就労を確保し、生きがいを持って活動できる場としてシルバー人材センターが設置されており、活動の周知を行い、新規会員獲得の取り組みを支援する。併せて市からの委託事業の開拓等の支援を行う。

【C】(チェック/確認)

- ケーブルテレビも広報に活用しているが、放送が通年ではない。

【A】（アクション/改善）

- 広報へのチラシの挟み込み、シルバー人材センターとの共同で研修会を開催したが、会員数は微減となっている。周知と研修は今後も継続する必要がある。
- 新規会員の確保に繋がるように、シルバー人材センターの周知の支援を行う。

◇ 各事業の取組の精査

① 移動・外出支援の受け皿づくり（送迎ボランティア養成講座）

- 集落活動センターでも話がでたが、事故が懸念され話が進まない。知り合いを乗せていくこともあるため、参加はしたいが事故に対する保障がわかっていなければボランティアはできない。
- 自己負担はとるのか。
- 送迎は人命にも関わることであり、自己負担を出してでも参加する意識を持った人がいいのでは。
- 高齢者の移動手段は困っているので、ぜひ実施してほしい。
- 市民対象の研修会を開いた県内自治体でも実際には育っていないようだが市ではどうなるか、足掛かりとして講座を開催し、どうすればできるのかを進めながら検討していきたいということか。
- サービスをつくる場合に、受け皿としての講習に加え、こうあればいいなという全体像をみせていけば把握（理解）しやすいのではないか。まずは受け皿を作る、母体をつくり人数を増やす、など流れがあると思うので、それを見せていけばわかりやすいのではないか。

② リフレッシュ移動サロン

（事務局） 社会福祉協議会で実施中。平成30年度利用者は3,397人。参加申し込み者の増加に対応できるよう、デイサービスセンターの日中の空き時間の車両を利用するよう検討中。野市の利用者が増加しており、1台増加。夜須も現状でいっぱいになっているので配車の1台増を検討中。

③ 市営バス

（事務局） 3年に1回乗降調査を行っており、令和2年10月に時間やコース、運賃の見直しを行う。乗降する8～9割は高齢者であり、高齢者や免許返納者への配慮をしていきたい。

3. 令和元年度の部会のテーマについて

◇ 高齢者の生活支援

- 昨年度4回目の会議では、食生活の問題や、民生委員からはゴミ出しができていないなどの声があがっていた。ゴミ出しや資源ごみの分別等、ひとり暮らし・虚弱等で掃除や片付けに支障をきたしている高齢者もいる。食事だけでなく、「生活支援」として日常の課題を考えてはどうか。

(事務局) できる限り自宅で生活ができるためにはどのようなことが必要であるのか、まずは「掃除・ゴミ出し」をテーマに考えていく。食生活については、移動・外出支援との関連があるので、受け皿づくりの進捗状況を報告しながら部会で意見を伺うようにしていく。

今回の資料の事例と併せて、社会福祉協議会の介護保険外サービスである日常生活支援と、シルバー人材センターの軽度生活支援事業の実績（利用状況や頻度）について次回の検討資料として準備する。